

土佐希望の家通信

<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
http://www.i-kochi.or.jp/hp/tosakibo/ Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY
LIFE
(家族の窓)
ひまわり
谷岡わか子様

陽子がひまわりでお世話になるようになってちょうど一年半が過ぎました。よく声をかけてもらって、ここ最近はずいぶん慣れてきたと思っていますが、反面わがままも出ているようです。

土日で帰宅して、家族と犬、猫との生活をにこにこして楽しみます。日曜日のNHKのど自慢が終わり、お風呂の準備をしていると「いや、いかん!」とだんだん不機嫌になり、最後は泣いて大暴れするときもあります。「陽子ちゃん、月曜日から金曜日まで、ひまわりでおつくれるき、お父さんもお母さんもお仕事いけるよね。」と言うと泣きながらも「うん!」と返事してくれます。準備がすっかりできてしまうとお父さんに抱っこされてひまわりの笑顔です。音楽と食べ物の好き嫌いといった陽子ですが、よろしくお願いします。



ボクは、ママとパパと
一緒に生活しています。

原音楽教室様



第2水曜日の午後、2時前になると、職員に手を引かれたり、車椅子を押してもらって、園生が食堂に集まります。輝いた瞳、にこに顔、ねむそうに頭を垂れたまま、とその表情は様々です。やがてピアノを弾き、歌いだすと音楽に乗って「ウーウー」唸る人、「エンヤオー」と合の手を入れる人、リズムカルな曲になると興奮して「ウワーウオ」、体を震わせるなどで表現してくれます。一転して静かなさびしい曲になると全員が「シーン」となります。一寸でも間が空けば「ワイワイ」と声がして催促されている様な気がしますから、休むことなく1時間経つてしまいます。「又ね、バイバイ!」と別れを惜しみながら園を後にします。

山の上で始まったこの時間、いつの間にかお隣にあった清風園が降り、今は施設も平地に移り、良い楽器も与えられました。職員の皆様の歌声に支えられながら続けてくることが出来ました。感謝です。園生の純粋な心は変わることがないでしょう。

原 雅子

『やってみよう』を実現させよう!

障害者の夢実現プロジェクト

昨年、十二月九日に「ひとまちふれあいフスタ」なんこくが開催されました。障害者の「夢」の実現を支援しようという企画があり、希望の家から8名の利用者が応募しました。そのなかで中城幸子さんの「デザイナーになりたい」と佐藤誠さんの「プロ野球選手と交流したい」が採用されました。中城さんの「デザイナープロジェクト」は三月から本格的に動き始め、中城さんを中心に週一回のミーティングと作業を重ねていきました。県社協の職員さん、高知女子大の学生さん、農業高校の生徒さんと先生、お母さん、希望の家の職員、みなさんの協力で十月十四日の希望の家祭で、デザイナーの「夢」は見事に実現しました。



希望の家祭で ファッションショー

はじめて会う人たちの中で、トーキングエイドを使って、根気よく自分の思いを伝えていった幸子さん、その話を根気よく聴いてくださったスタッフのみなさんがあったからこそ実現したプロジェクトでした。幸子さんとスタッフの間には友情の輪が育っていきま

インフルエンザ 豆知識

施設長 國富泰二先生

- Q インフルエンザはいつ頃から流行始めますか?
A 十一月〜十二月頃、木枯らし一番が来ると流行が始まります。流行状況をマスコミから知ることが重要です。
- Q インフルエンザは普通の風邪とどこが違いますか?
A 38.5℃以上の高熱、咳、筋肉痛(特徴的)、倦怠感などです。インフルエンザかどうかは十五分ほどで診断できる迅速検査があります。
- Q インフルエンザにかかったらどうしたらよいですか?
A 抗ウイルス剤を処方してもらってください。症状が出て四十八時間以内でないと効きません。どんな人がインフルエンザにかかる危険ですか?
A 体力のない高齢者や乳幼児、呼吸器や心臓疾患、糖尿病のある人も危険です。多い年には、一万人もの高齢者が死亡しています。高齢者とハイリスク疾患患者等では、抗ウイルス剤の予防内服が、全額自己負担で可能です。
- Q インフルエンザの予防はできますか?
A 予防接種を受けることが一番有効です。費用は一回が約3千円(十二歳以下の小児は2回接種)です。六十五歳以上の高齢者では公的補助があり、自己負担は約千円です。高齢者、ハイリスクの人、受験生は受けることがよいと思います。

今回、中城さんが描いたデザインは、成式で着物を着れなかったことや中森明菜のステージ衣装にあらわれていたことがコンセプトにあります。お母さんの着物をリファームし、星や天の川をイメージ、裾を短くしたドレス仕立になっています。勇気をふりしぼって高知女子大のオープンキャンパスにも出ました。高校生たちは、研究大会でこの取り組みについて発表をしました。こうして輪が広がっていき、十一月八日の高知県「人権フスタ」でのユニバーサルデザインファッションショーにも参加しました。幸子さんの勇気は周りの人々を励まし、最高の笑顔でした。大きく羽ばたいたこの一年、もうすでに次の夢にむかっています。



ご協力してくださったみなさん
ありがとうございました

ご厚意

八月〜十二月



【寄付金・寄付物品】

大川恵子様 藤原牧子様 池尻浩一様
高知市商工観光部公営事業課様 高木光雄様
安藤俊樹様 高知ライオンズクラブ様
竹内洋様 濱田浩司様 山下大輔様
遠藤慎友様 南国市農協様 川村美和様
光富明美様 江口壽榮夫様 高知タマモ食品様
坂田二子様 宮田敬三様

【ボランティア】

竹村真弓様 明神あけみ様 岩川周司様
大篠婦人会様 ウイズ音楽ボランティア様
美和婦人会様 吉田豊子様 米田佳余子様
高橋由美子様 葛目博子様 龍馬看護ふくし専門学校様
高知福祉専門学校様 南国市民生児童協議会様 高知ファイティングドッグス様

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします

☆ 編集後記 ☆

一年振りの希望の家祭が無事終わりました。施設統合などいろいろありましたが、希望の家、希望の家分校、保護者、地域のボランティアの方々など全員で取り組みました。準備も大変でしたが、普段とは違う利用者の方の表情を見ることができました!

重心学会ファッションショー

昨年度から、重心学会のレセプションで、開催されている重症児ファッションショー。今年は九月二十七日、高知で学会があり、国立病院機構高知病院の利用者のみなさん、土佐希望の家の竹村具子さん、坂田幸子さんがモデルとして出演しました。

二人の洋服は日本女子大学の多屋先生が担当して下さり、とても素敵なデザインで着やすさ抜群の秋冬モードが仕上がりました。竹村さんは國富先生に、坂田さんは島田療育センターの先生にエスコートされ、とても嬉しそうでした。坂田さんのタイツは宇宙飛行士用の新素材で地上で着用したのは坂田さんが初めて、みなさん驚いていました。



笑顔いっぱい

☆希望の家祭☆ 開催！



フラダンスで華やかにはじまりました！

十月十四日(日)、第二十九回希望の家祭が開催されました。天気は曇りでしたが、二年振り、施設統合後初めての希望の家祭ということで、盛大に行われました。

午前中はステージにて、ファンファーレ、フラダンスショー、開会挨拶、ボランティア表彰式、愛と希望レンジャーショー、在宅支援センターの出し物、若草養護学校土佐希望の家分校による歌と踊りが行われました。

午後からは、こすもす、ひまわり、すみれ・たんぽぽ、あざみの各病棟の出し物、続いてファッションショー、最後は全員で合唱して閉会しました。

ステージ以外にも喫茶では、焼きそば、肉まん、ケーキやジュースなどが販売され、フリーマーケットも大盛況でした。施設内



スピリットアート展に入賞しました！！

先日開催された第十一回スピリットアート展に、希望の家でも出展希望者を募り、絵画や写真、点描画など様々な作品を出展しました。強い意欲を持って作品を出展した人や職員に勧められるがままになんとかなく出展した人など、思いや意気込みは様々でしたが、どれも本人一押しのすばらしい作品ばかりでした。

出展から数日後の新聞を見てビックリ！3病棟の小松義幸さん、楠瀬順子さん、西崎佐知子さんの3名が見事入選していました。スピリットアート展は年々出展数が増加し、審査が厳しくなってきました。その中の3名の入選はお見事！おめでとうございます。

今回は選ばれなかった作品の中にも素晴らしい作品が沢山ありました。全ての作品に作者の様な思いが込められており、たくさんメッセージを感じることができました。そんな作品を、多くの方に見ていただきたいと考え、出展作品を施設内の廊下に展示することになりました。希望の家にお越しの際には、ぜひ彼らの『魂の芸術』スピリットアートをご覧になってください。



「冬の街」 小松義幸 作

「喜怒哀楽」 西崎佐知子 作
第11回スピリットアート 入賞作品

「にじ」 楠瀬順子 作



保護者、学校の先生、地域のボランティアの方々などたくさんのご協力ありがとうございました！！



には利用者の作品展示や写真、華道クラブの生け花など、飾りつけもがんばりました！



バイオリンとピアノの演奏に皆さんうっとり

十月六日、池本早苗さん他6名のウイイズというバイオリンとピアノ、歌の音楽ボランティアグループが来園して下さいました。誰でも知っている楽しい「猫ふんじやつた」で始まり、今年話題の「千の風になつて」や、「アマリスマルセリーノの歌」「ドナドナ」等の懐かしい曲目は心和む演奏でした。

利用者さんとの合奏では小松かよさんが大好きな「荒城の月」をピアノで、浜口延雄さんはギターで参加し拍手喝采でした。最後は全員でピアノに合わせて大きな声をだして「おもちゃのチャチャチャ」「ドレミの歌」「バラが咲いたを一緒に歌いました。ウイイズのグループ名どおり一緒に楽しめる時間でした。

次回は十二月十九日(水)にクリスマスコンサートを開いていただけます。皆さん鳴物をガチャガチャと持ちよって楽しんで下さいとのことです。

ファイティングドッグス



高知ファイティングドッグスの選手も手伝いにきてくれました☆



フリーマーケットも大盛況



愛と希望のレンジャー（誰なの！？）



フットキャンプで、ワン・ツー・スリー

施設統合がされて初めての希望の家祭、ステージの出し物も、最初は消極的でしたが、日が近づくにつれ、病棟対抗意識も出て、療育の公文さんをプロデューサーに「ビリ・ザ・ブートキャンプ」に挑戦しました。看護の勝賀瀬さんや岡村卓也さんの変身もすごく似合っていました。ステージ所狭しと踊り歌い、参加した利用者さん、職員皆楽しいステージとなりました。写真展示も、それぞれ皆いい表情で、親子、友達、職員と写っていたり、「笑顔」「瞬の表情」がとても良かったと思います。当日はボランティアさんにもお世話になり、発熱者以外、普段出られない分、ベランダや外へも出られて、有意義な一日となりました。

日々の生活の大切さ、又行事といった季節ならではの催し物の大切さ、地域の方々とふれあったり、懐かしい友、職員、父兄に逢えたり、希望の家祭は、やはり必要な一大イベントだったと痛感したことでした。

2病棟療育員 中西純

砂子療育園での実習を経て

1病棟療育員 武政俊秀

十月二十二日から二十七日までの6日間、兵庫県西宮市にある砂子療育園に研修に行ってきました。この研修の話はいたく以前より、私自身、他の施設ではどういった日常が営まれているのかとても興味があり、また研修を通して療育員として土佐希望の家で3年間勤務する中で、入所者の方々と接し感じてきた事を環境が変わることによって再確認したいという思いをもって臨んできました。

研修中には日々の具体的な取り組みや、入所者の方への日常的な生活介助の場面でのかわりを体験することが出来、大変勉強になりました。たとえば利用者の方の歩行介助でも、その方の現在の生活を意識し、その上で機能を維持するという目的を持ち継続して関わることで、利用者の方の意欲や機能の維持向上につながっていました。利用者の方の生活の質を向上させるためには、現状の把握、当面の目標設定、他の専門職との連携を忘れず日々根気強く取り組むことが大切だと強く感じました。

研修を終えて、自分自身これからもっと勉強をしなければと思いましたし、その上で少しずつでも実践していくことが今回の研修の意義だと考えています。ただの経験で終わらないように、今後に活かせられるよう努力していきたいと思います。今回はこのような機会をいただき本当にありがとうございます。